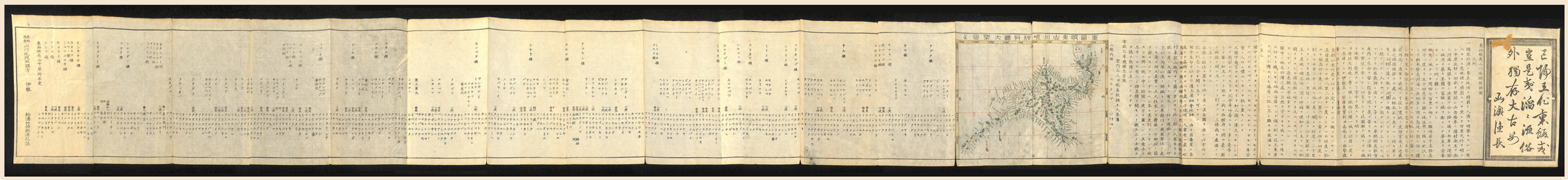
東西蝦夷山川地理取調図 一〜二六

松浦武四郎（著）　1859（安政6）年刊

全26枚の切り図。経緯度1度をもって1枚とし、全て並べると縦240cm×横360cmの大きな地図になる。約9,800のアイヌ語地名が記されるなど、当時の北海道の地形や地名が内陸部まで詳細に示されている。首巻と尾巻を合わせた全28枚のセットで、当時の販売価格は銀180匁。首巻には松浦武四郎を案内したたくさんのアイヌの人々の名前も記されている。



東西蝦夷山川地理取調図 首巻

松浦武四郎（著）　1859（安政6）年刊

全26枚の地図「東西蝦夷山川地理取調図」の首巻。この地図を出版する目的や、図中で用いた「運上屋（家）」などの記号を説明した「凡例」のほか、「案内土人*併（ならびに）地名取調土人名簿」として、道案内や地名の聞き取りで武四郎を世話したアイヌの人びと281名の名前が書き上げられている。このほか番人2名、出稼ぎ和人3名の名前もある。

*「土人」は、古くは「その土地に生まれ住む人」といった意味で用いられた語で、ここではアイヌ民族を指して用いられています。この語がやがて差別的な意味で使われるようになり、現在では一般に用いられることのない語ですが、ここで展示した地図については、資料の中の言葉として、そのまま掲載しています。